

親和傾向と拒否不安がグループの所属とグループの特徴に及ぼす影響

○石田靖彦 (愛知教育大学)

永井里奈 # (加納小学校)

キーワード：親和傾向、拒否不安、仲間集団の特徴

問題と目的

親和動機には、拒否に対する恐れや不安無しに人と一緒にいたいと考える「親和傾向」と、分離不安から人と一緒にいたいという気持ちを表わし、他者からの拒否に対する恐れを要素を持つ「拒否不安」という 2 つの異なる側面がある (杉浦, 2000)。これら 2 つの親和動機は、友人関係のあり方や対人的疎外感に異なる影響を及ぼすことが指摘されている。

本研究では、親和傾向と拒否不安が、クラス内の仲間集団への所属の有無や、所属する仲間集団の特徴とどのような関係にあるのかを検討する。

方 法

調査対象者と調査時期

A 県内の公立中学校 1 年生～3 年生計 546 名 (男子 266 名, 女子 254 名, 無回答 26 名)。調査時期は 2019 年 10 月であった。

調査内容

親和動機 杉浦 (2000) の親和動機尺度 (親和傾向・拒否不安) を使用した (18 項目, 5 件法)。

クラスでのグループの所属有無と人数 クラスでのグループの所属について「所属している」「所属していない」「わからない」の中から 1 つ回答を求めた。また「所属している」と回答した人には、グループの人数も回答させた。

グループの特徴 石田・小島 (2009) の仲間集団の特徴尺度 (凝集性・階層性・閉鎖性) を使用した (16 項目, 5 件法)。

グループについての自由記述 クラスの中にグループがあることをどう思うか、自由記述で回答を求めた。

結果と考察

グループの所属については、男子では「所属」が 128 名 (48.1%), 「無所属」が 15 名 (5.6%), 「わからない」が 123 名 (46.2%), 女子では「所属」が 166 名 (65.4%), 「無所属」が 18 名 (7.1%), 「わからない」が 70 名 (37.1%) であった。「わからない」という回答が多かった理由については、自由記述の結果から、とくに男子においてグループを意識していなかったり、グループの境界が曖昧であったりすることが影響している可能性が示唆された。「所属」「無所属」「わからない」群の親和傾向と拒否不安を比較したところ、男子では、無所属群が親和傾向 ($p < .05$) と拒否不安 ($p < .001$) が他の群にくらべて有意に低く、女子では所属群が他の群にくらべて親和傾向 ($p < .05$) が有意に高いことが示された。

次に、グループに所属していると回答した 294 名 (男

子 128 名, 女子 166 名) を対象に、親和傾向と拒否不安について男女別に平均値を算出し、それぞれ親和欲求 (高低) × 拒否不安 (高低) の 4 群に分類した。そして、グループの構成人数、グループの特徴 (階層性、凝集性、閉鎖性) について、親和欲求 (高低) × 拒否不安 (高低) の 2 要因の分散分析を行った (Table 1, Table 2)。その結果、グループの人数については、男女とも、主効果、交互作用は認められなかった。

仲間集団の特徴については、男子の凝集性で親和欲求の主効果 ($F(1, 124) = 19.88, p < .001$) が認められ、親和欲求が高い男子は凝集性が高い仲間集団に所属していることが示された。女子では、凝集性で親和欲求の主効果 ($F(1, 162) = 11.74, p < .01$)、閉鎖性で親和欲求の主効果 ($F(1, 162) = 23.32, p < .001$) と拒否不安の主効果 ($F(1, 162) = 7.82, p < .01$) が認められ、親和傾向が高い女子は凝集性が高く、閉鎖性が低い仲間集団に所属しているのに対し、拒否不安が高い女子は閉鎖性が高い仲間集団に所属していることが示された。

グループがあることについての自由記述では、仲の良い者同士でグループを作ることとは自然で良いことだという肯定的な意見が多くあった一方で、グループだけで固まって他の生徒との関わりが少なくなったり、クラス全体まとまりがなくなったりするなどの否定的な意見も多かった。閉鎖性の低い開かれた仲間集団を形成するには、生徒の親和傾向を高めるような環境づくりが重要であると言えよう。

Table 1 男子の仲間集団の構成人数と仲間集団の特徴

	親和高群		親和低群	
	拒否高群	拒否低群	拒否高群	拒否低群
構成人数	5.4 (3.41)	8.5 (8.24)	5.3 (1.86)	5.4 (2.90)
階層性	18.4 (4.51)	16.7 (4.06)	16.5 (3.25)	15.9 (5.02)
凝集性	17.5 (2.49)	17.8 (1.91)	15.8 (2.33)	14.5 (3.40)
閉鎖性	13.6 (4.56)	12.1 (4.81)	14.1 (2.98)	14.5 (3.99)

Table 2 女子の仲間集団の構成人数と仲間集団の特徴

	親和高群		親和低群	
	拒否高群	拒否低群	拒否高群	拒否低群
構成人数	3.6 (1.43)	4.2 (3.31)	3.8 (1.40)	3.4 (1.32)
階層性	14.5 (4.66)	14.8 (4.76)	16.7 (4.45)	14.8 (3.97)
凝集性	17.7 (1.82)	17.1 (2.41)	16.2 (2.54)	15.8 (2.83)
閉鎖性	11.7 (3.28)	10.4 (4.41)	15.2 (3.33)	13.0 (3.86)